

目ざめの季節のクミンカムイ

冬眠の不思議

クマの仲間の特徴の一つ、それは厳しい冬を冬眠して過ごすことです。シマリスのような小さな動物では冬眠するものはいくつかありますが、中型動物以上で、冬眠するのはクマだけです。彼らは11～12月には穴ごもりをはじめ、平均4～5ヶ月も飲まず食わずで過ごします。穴からでて動きはじめるのは、早いものでは3月上旬、中には5月まで出てこないものもあります。しかも、妊娠したメスグマは厳冬期の1月下旬から2月上旬に出産します。5月まで出てこないのは、そうした出産した母グマです。何も食べずに授乳まですることができる体は、いったいどんな仕組みになっているのでしょうか。

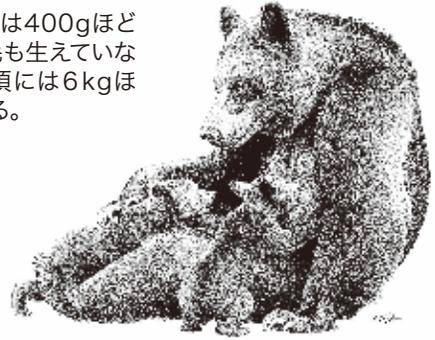
カムイの寝床

冬眠穴には大きく分けて、自分で掘った土穴、樹洞、岩穴の三つがあります。土穴は木の根張りの下に掘ったもの(ST型)と何もない地面に掘ったもの(S型)の二つに分けることができます。知床では全体の約9割が土穴で、中でもS型がほとんどです。穴の入り口は一つで、奥行きは2～3m。一番奥の寝床は、人があぐらをかいて座れるほどの大きさがあり、ササや小枝が厚くしかけています。

ずっと熟睡ではない

クマの冬眠は、体温や呼吸数を大幅に下げ、まったく動かなくなるシマリスのような完全な冬眠ではありません。刺激するとすぐに起きるし、出産した母グマ

生まれる子グマは400gほどで、目も開かず毛も生えていない。穴から出る頃には6kgほどにまで成長する。
(絵 田中豊美)



はうつらうつらしながら子育てしています。冬の山歩きでは、クマの穴を踏み抜かないように要注意です。昨冬の標茶の山林作業員の事故の例もあります。

注意！春の餌場は山菜採りの場所と同じ

長い冬眠から目ざめたクマは、さぞや空腹で凶暴になっているのでは？と聞かれることがよくあります。大丈夫です。そんなクマは見たことも聞いたこともありません。急にガツガツするわけではなく、ゆっくりと体を慣らしていきます。

しかし、気を付けなければならないのは山菜採りです。クマの餌の草が多いのは、山菜採りにも最適の日当たりの良い斜面です。山菜を採るときには、至近距離で出会ってビックリさせないように十分注意しなければなりません。また、春によくあるシカなどの死体も要注意。大きな獲物を食べているとき、万一近づくと、取られまいとして攻撃してきます。動物の死体への接近は厳禁です。
(山中正実)

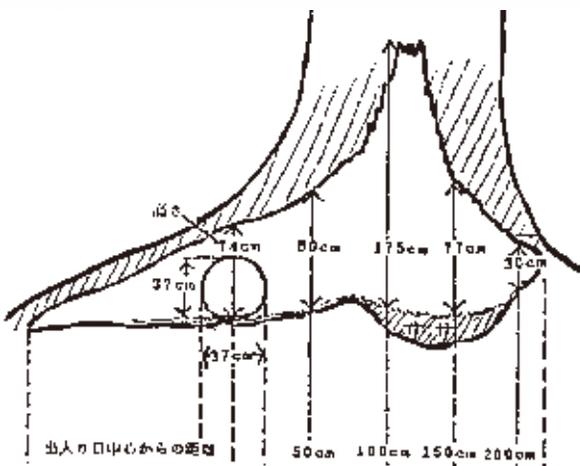


図 上図は土穴(ST型)で木の根張りの下に掘ったもの。下図は樹洞で木の根元の空洞を利用したもの。



写真 冬眠穴の入口。木の根張りの下に掘った土穴(ST型)。根の又の間から掘り込んでいる。

発行 知床博物館協力会 2016.4.24

099-4113 北海道斜里郡斜里町本町49

斜里町立知床博物館内

TEL: 0152-23-1256 FAX: 0152-23-1257

<http://shiretoko-ms.sakura.ne.jp/>